

## H25 浪江町復興計画策定委員会

### 第1回 町民協働による進行管理部会 議事概要

日 時 平成 25 年 7 月 11 日 (木) 13:00～15:00  
場 所 福島県男女共生センター 4 階 第 2 研修室  
出席者 別紙のとおり

1. 開会
2. 部会長、副部会長選出
3. 部会長、副部会長あいさつ
4. 議事
  - (1) 事務局説明
    - ・ 進行管理部会の目的と今後の進め方について 【資料 進 1、進 2-1～2-3】
  - (2) 今後の進め方の検討
    - ・ 議論のルールについて
    - ・ 議論の枠組みについて
    - ・ 議論の方法について
    - ・ とりまとめのイメージについて
5. その他
6. 閉会

#### ≪議事概要≫

#### ○部会長、副部会部会長選出部会長について

##### 【事務局説明】

- ・ 復興計画策定委員設置要綱の中で、部会長については委員長が選任する、副部会長は選任された部会長が指名することになっている。先日委員長をはじめとする有識者の先生方との会議において進行管理部会については、部会長を吉岡先生、副部会長を丹波先生、長崎先生にお願いするという事になりましたのでご報告します。

#### ○部会長、副部会長あいさつ

##### 【部会長：吉岡】

- ・ 震災の前から浪江の町づくりにも関わらせていただいていた。
- ・ 県あるいは市町村の計画づくりなり、調査研修なりをお手伝いさせていただいており、震災前から浪江の協働のまちづくりという試みをやっていた。
- ・ 行政区長さんに集まっただき環境に配慮した町づくりなどを、少し長い期間関わらせていただいていた。
- ・ 浪江町の土地勘はそれなりあります。浪江だけでなく双葉、相双地域全体についても現地調査などをやっているのので、少しでもいい計画づくり、進行管理のお手伝いをしたい。

#### 【副会長：丹波】

- ・復興計画、復興ビジョンからお手伝いさせていただいて、浪江町の皆さんとはずっと何回も議論させていただいている。
- ・これから進行管理部会ということでそれぞれの復興計画の中身を議論していくことになる。
- ・今回部会の携わるにあたって感じたことが、震災当時0歳の子供がもう3歳近くになっている。子供達からしてみると、1年1年はすごく重みがあって変化も早い。我々も復興の計画が町民の方々やあるいは、子供たちの暮らしや生活の再建にきちんと繋がっているのかどうかということをも自分自身問いかけ直しながら進行管理部会の進行に務めて参りたいと思っている。
- ・町民の皆さんのそういった気持ちをきちんと向き合っていけるような部会にしていきたいと思っている。

#### 【副会長：長崎】

- ・浪江町とはお付き合いが長く、最初に伺ったのは10年位前です。そのあと震災の前にも地域公共交通総合連携計画策定のお手伝いをしていた。
- ・復興ビジョン、復興計画づくりもお手伝いをしてきた。昨年の策定の際は産業再生部会と教育健康管理部会に参加をした。
- ・これまでの6ヵ月の間は結構動きが大きくて、先月も町の中へ立ち入りをしたが、町内で事業再開の準備をされてる方がいる一方で中々進まない事業もある。
- ・皆さんのお知恵を拝借しながら復興計画が実現に向かっていけるようにお手伝いできればと思っている。

### ○（1）事務局説明

#### 【委員】

3-2の1「過去を振り返るのではなく、未来を語る。」その下の3-3の事務局案の議論のルール案では、同じように①「過去と現実をつなぐ方法を模索しよう。」という文章があるが、よくわからない。

最初は「建設的議論をするには過去を振り返ってはいけませんよ。」と書かれている。しかしながら事務局案ではそれとは相反したことが書かれている。どう解釈してこの部会にのぞめばよいのか確認したい。

#### 【事務局】

「行政の過去を語ろう。」ここでの過去という言葉は、震災発災から2年4ヵ月行政としてどんな取り組みをやってきたのか、今どういう状態なのかという部分を振り返って共有をしていかないと次に繋がる議論というのは中々難しい。その上で同じテーブルで未来について議論をしていくということが大事であると事務局としては考えた。

#### 【部会長】

私の解釈としては、過去・現実・未来そんなにこだわって議論しなくてもいいのではないかと。当然、現実あるいは未来を語るうえで過去を踏まえて現実を語ったり、未来を語るということになる。

ただここで大事なのは過去の話で終わってはいけないということで、過去の話をつまみつつ、これからは役に立つ話を議論したいということだと思ふ、そういう趣旨でご理解いただけたらと思ふ。

#### 【委員】

私どもは素人ですので言葉の意味をよく噛み締めないといけないような言葉では中々議論が進まない。もっと別な優しい言葉でわかるような言葉がなかったのか。言葉はなるべく優しく、誰にでもわかるように。是非やっていただきたい。

また、今の発言の中で“発災”という言葉が使われた。事故が起きてからということだが、私どもは事故を起こしたのではなく被災しているわけである。事故を受けたのだから、発災という言葉は国や東電が使う言葉で、県・町・私達レベルでは絶対“被災”という言葉であると思ふ。

先日、県の商工会総会があったが、その中での知事挨拶でも「発災以来」と言っていた。言葉一つですけども是非考えていただきたい。

#### 【部会長】

言葉の遣い方ですが、なるべくわかりやすい言葉で、優しい表現ということで気を付けたいと思ふ。それから発災と被災の考え方ということでこの辺も細かく理解をするとそういう心配もおそれも出てくる。なるべく注意しながら使いたいと思ふ。

#### 【委員】

議論の進め方として、単純に言えば2時間ごとに「生活再建1」・「生活再建2」・「ふるさと再生」の3つを順番にやっていると理解したがよろしいか？

たとえば生活再建1を2時間徹底して議論したとして、終わったら順番に生活再建2もしくはふるさと再生になると思ふが、頭の切り替えが難しい。

#### 【事務局】

委員のご理解の通りです。2時間ごとに順番にテーブルを移って行くという考えです。その上で午前と午後2時間ごとに時間を区切るという形で進めたいと思ふている。

資料のとおり各グループ4回ずつの議論をいただく。その上で議論のテーブル生活再建の①であれば「健康管理」「賠償」「就労・事業再開」の3つの分野を整理しているが、2時間ごとにまず、「健康管理」という大きな分野を議論していただく。その次にまた生活再建①のテーブルに戻ってきた際には、「賠償」の議論をしていただく。また、生活再建①に戻ってきた際には、「就労・事業再開」というような形で考えている。

生活再建①中の「健康管理」「賠償」「就労・事業再開」というものを一色単にして2時間の中で色々議論する、というのではなくて、1回ごとに分野をきっちり分けて議論していただくことを考えている。

2時間で全て見きれぬのかどうかという部分もあるので、最後の1回については予備ということでも議論しきれなかった部分を追加でご議論していただくことも考えている。

#### 【部会長】

昨年の復興計画は、6部会にわかれてそれぞれ部会の専門分野の議論をしたということで、逆にそれ以外の分野については中々議論ができなかった。そういう機会が限られてしまった。ということがあったので、今回はその反省を踏まえて全委員の皆さんが全分野について議論出来る様に配慮をしたということです。

したがってこのローテーションと書いてあるのが、それぞれ皆さんが全分野について議論が出来るという形で今回組んだもの、例えて言えば、浅い議論になるかもしれないが、幅広い分野について皆さんのご意見を頂きたいという趣旨でこういうローテーションを組んでいる。

最初にそれぞれの分野の対象になる議論の中身を事務局から説明あり、例えば「健康管理」だったらこういうテーマを取り上げたい。あるいは、「教育・子育て」だったらこういうテーマを取り上げたい。それぞれ開催する始めにその説明があると思う。その説明を聞いたところでうまく切り替えていただけたらと思っている。

#### 【委員】

簡単にいうと各2時間そのテーマをもってそれについてしゃべれってということだと理解した。それがたまたま生活再建の①だった。たまたま生活再建②の分野だったってこと。簡単にいうとそういう話だと理解したが。

#### 【部会長】

まさにそういうことです。

#### 【委員】

理解しましたが、その中で例えば「健康管理」を僕らのグループでそれをやった結果、我々のグループがこういう形でまとまりましたよ、という発表までやるのかなと。その上で別な議論をした時にそちらに頭の回転がスムーズに行くのかなと。今のお話ですと、そのグループの総まとめは別にしなくてもこの議論だけを進めれば良いと理解してよろしいですね？

#### 【部会長】

はい。その場ではですね。

それでまた言いつばなしではいけないのでそれぞれの各グループからでた意見を総合してどのグループではこういう意見が出ましたという意見交換をする時間を設けている。

## ○議事（2）今後の進め方の検討

### 《議論のルールについて》

#### 【部会長】

次に議論のルールですが、事務局提案では未来に繋がるような話をするためのルールを決めましょうということですが、これに関して皆さんご意見ありますが。

#### 【委員】

異議なし。

#### 【部会長】

改めて確認すると①町民は現実と未来を語ろう。行政は現実と過去を語ろう。そして議論の中で過去と現実と未来をつなぐ方法を模索しよう。②絶対的な正解も、間違いもない。人の意見を否定しないようにしよう。そして断定した言い方にならないように気をつけよう。それから③として人の意見は最後まで真剣に聞こう。そして話す側はポイントを絞った話し方になるように気をつけよう。こういったこととなっています。

今更ながらと苦笑されている皆さんも多いようですが、これはこれで確認をするということでもよろしいか。まずルールはこんなことで、皆さん他人の意見を尊重しつつ、前向きな議論をしたいと

いうことを確認したいと思います。

## 《議論の枠組みについて》

### 【部会長】

議論の枠組みというとはわかりづらいが、事務局では50名一堂に会しての議論は困難だが、できるだけ多くの町民の皆さんの視点でチェックすることが必要。なるべく多くのご意見を語っていただきたい、とのこと。このことを考えたときにどのような枠組みができるのか。事務局から議論の仕方を提案いただいているが、これについてなにかご意見なりございますか。

### 【委員】

こういう風な形で進められることはいいことだと思うが、一つここにある生活再建①の中に就労、事業再開というように書いてある。就労、事業再開については町外コミュニティと密接に関わりもあるような気がするが、何処で事業再開するのかというのは事業やっている方というのは非常に今難しい状況で、少しでも町外コミュニティができるようなところで事業再開するという希望があると思うが。どうしてこちらなのか？

### 【事務局】

テーブルを3つに分けて分野をそれぞれに考えたときに、ご指摘の通り町外コミュニティと関連の強い部分として「就労、事業再開」については関連が深いとは認識していた。初めに関連性の深い分野ごとにテーブルを編成しようと、一度「町外コミュニティ」と「就労・事業再開」セットにした形でいったん組んでみた。しかし「健康管理」と「教育、子育て」は関連性は深くないのか、「町外コミュニティ」と「避難生活支援」、「賠償」は関連性は深くないのか、などもありどうしても人の考え方によってはこの項目とこの項目の関連が強い、強くないという部分が出てきてしまうと思い、かなり悩んだ部分ではあるが、復興計画に記載している並びで単純に3等分したかたちをとらせていただいた。

議論のなかでこの分野とこの分野をセットの方がいいというご意見も踏まえて修正も前提としてお話していただけたらと思います。

### 【部会長】

事務局も色々検討もしたけど最終的な案としてこういうことになっているということ、基本的には最終的に全ての皆さんが全てに分野について議論はいただくということになるので「就労」と「町外コミュニティ」関連してという事であれば就労事業再開のところで町外コミュニティに関しての発言をいただいても結構ですし、あるいは町外コミュニティの中で発言をいただく時に町外コミュニティにおける就労事業再開はこんなことが考えられるのではないかとご意見をいただいても結構です。

このグループというのはそれほど問題が無いというかそれぞれその時々でご発言をいただいて結構だと思う。そういう理解をしていただけたらと思いますが。よろしいか。

### 【委員】

実は、前の計画の時「町外コミュニティ」と「事業再開」については密接に結びついていた。私は産業再生分野だったが、町外コミュニティの方と是非話し合う機会をいただきたいとお話したが、時間がなくてそれができなかった。もしそれが単純に並んだ順に区切ったものだったら、「町外コミ

コミュニティ」と「事業再開」は同じ分野にあった方が話をするうえで効率がいいのではないかと思う。別な意図の下に生まれたのでしたら別ですが、単純に並べただけでしたら、「町外コミュニティ」と「事業再開」は一緒にすれば話をする場合に解りやすいと私は思う。

**【部会長】**

町外コミュニティと就労再開を同じ分野グループで議論をしたいというお話がありました。これに関してもし異論が無ければ、「就労・事業再開」と、「町外コミュニティ」を同じグループ入れ替えてるとするのは可能だと思います。

「健康管理」と「町外コミュニティ」を入れ替えることでいかがですか。この辺は何かご希望はありませんか。

**【委員】**

先生がおっしゃったのがいいと思います。

**【部会長】**

「健康管理」と「町外コミュニティ」を入れ替えます。たしかに前の6分野はこういう切り口が近かったと思う。

それでは今の入れ替えを前提で、3つにグループでテーマを重視しながら、午前2時間、午後2時間最後のまとめ1時間という区分でローテーションで周って行くということで進めてみたいと思います。

《議論の方法について》

**【部会長】**

議論の方法について、前提として個別の事業の進捗よりも、例えば「健康管理」・「除染」といった大きな政策分野で目的を達成できているかどうか、目的達成のために優先的に取り組むべき施策は何か、といった視点が重要。ということで目的を踏まえつつ議論をしたいということ、議論の方法として事務局の提案についてはいかがか。

**【委員】**

町外コミュニティですが、午前中の全体会では相手（受入市町村）のある事だという言い方をされましたが、町の方で相手は相手という見方をしていると上手くいくものも上手くいかない気がする。本当にいい町をつくっていくと考えていかないと町外コミュニティもうまくいかないのではないかな。その辺について町の方から意見をお聞きしたい。

**【事務局】**

相手（受入市町村）がいることなので何もできない、相手がいるから町から何も発信しない、ということではありません。ただ、町外コミュニティ部会という部会をつくって、これが、あれがというような議論はもう少し条件が揃わないと出来ない状況です、ということでご説明させていただきました。

進行管理部会の中で色々ご意見を出していただき、それを基に受入市町村との個別協議のなかでも話をさせていただくということになる。

**【部会長】**

午前中の説明で少し言葉が足りない所があって、相手があるからなにも言わない、ということで



はなくて、相手があるからこちらが単独で議論できるところまでまだ機が熟していないという意味で、こちらで言うべきことは、こういった部会で出していただき、それを適宜事務局なり、首長さんなりにつないでいくことは当然やっていくべきだと思う。

#### 【委員】

浪江町民だけの協働の在り方だけではなくて、受入自治体との協働の在り方というのも考えてほしいと思う。

#### 【部会長】

どういう機会が用意できるかというのはありますが、鈴木委員長の双葉広域で考える必要があるという話もあったかと思います。当然そうなるとそれぞれの町、村の首長さんが集まったの議論が必要になってくると思う。町外コミュニティなどはまさに、こういった大きな土台で議論する。そういったところで我々の意見を活かしていただくという意味でうまく協働のつながりができてくるといいなと思う。

#### 【委員】

今後の日程案内が出る時に次のテーマはこの辺ですよという事を案内していただければと思う。

#### 【事務局】

事務局では、大きな分野のなかでどこに焦点を絞って議論を進めたいというペーパーを作成をして事前にお配りをできればと考えていた。

その中で今ご指摘いただいたように、その部分はどこになるのかというのを合わせてお示し出来ればと考えている。事前にお送り出来る様に頑張りたい。

#### 【委員】

町民委員の立場としての確認ですが、事業を遂行していくのは町の立場だと思うが、それに対してのより多くの情報を提供していく立場として理解しているので1つですけど。同じテーブルに3グループあるということは、6時間聞く側は聞くようになる。議論の積み重ねがあつていいかと思う、最後の取りまとめまで待たないで、簡単なものを事前に5分10分でも議論に入る前に用意してもらうような工夫があれば同じ発言を繰り返し、他のグループがする必要はないのではと思う。

#### 【事務局】

例えば、健康管理の分野で議論を午前と午後議論を2回やった場合にその次の第3回目に関しては別の日になりますので、それまでの間1回目と2回目の論点ペーパーのようなものを作成をして事前にお配りするよう考えていた。

もう一つやり方としてあるのは、出た意見を全てA3版資料に落とし込んで毎回お配りするというパターンもあるかと思う、ただ毎回60ページのもの送られてくるというのも、全て確認して次に臨むというのも委員に皆様のご負担がかなり大きくなってしまふ部分もあると思う。

午前、午後については資料的などりまとめをする時間はございませんので、テーブルでの固定委員、または有識者の先生方の方に午前中はこんな意見があつたというアナウンスも適時してもらいながら進めていただければ非常に助かると考えている。

#### 【部会長】

事務局から説明があつたが、そこまでは必要ないと考えている。グループ1でどういう議論が出たか、仮にグループ2の時にグループ1ではこんな議論があつたという、それにひばられてし

まってグループ1ではこういう議論やったんだったらグループ2はいいんじゃないのって話になってしまう。それでは本来の趣旨としてはまた違ってしまうという気がする。基本的には各グループは独立して議論をいただいて、結果的にまとめの段階でグループ1とグループ2は同じような議論が多かったですねと、この点は重要でしょとか、あるいはまったく違う議論が出ましたと、というようなことで最終的な報告をいただいて、どのようなとりまとめにもっていくかというような話につなげていただいたほうが、それぞれ独立の議論ができていいのではないかと思います。

事前にどんな議論があったという説明をするのは可能だと思いますが、本来の趣旨からするとどうかなという気がする。

#### 【委員】

同じテーマで3回積み重ねて、固定委員の方はどうなのかなと思ったものですから。それと自分達の意見は一所懸命述べたけども、その議論はこちらで済ませてたよ。というのはあってはならない。

#### 【部会長】

繰り返し出てきたのは繰り返し大事な議論だったという位置づけになる、職員委員はそれぞれ専門をかかえているので、貴重な意見をグループ1からこんな意見、グループ2からこんな意見、グループ3からこんな意見というようにいただけるわけなので、それぞれ自由に議論していただきたいと思う。特にお互いのグループ間で議論の前に情報交換をするという必要はないと思う。

#### 【委員】

例えば、同じ文章を配られても感じるものは人それぞれ違う、事前に事務局から配布されてもそれぞれ考えが異なるかもしれない。そのことについて同じような話をしても考えた方が違うのでどんどんやったほうがいいと思う。あまり固定観念にしばられる必要はないと思います。やってみないとわからないので、まずはスタートしてみてその時に皆さんの意見で手法を変えて行こうとか、まずはやってみるべきだと思う。

#### 【委員】

浪江町復興の計画ですが、浪江町はインフラ整備とか色々な住む為の要件が満たさないうちはまず5年かかるだろうと言っている。その中で今やろうとしているものは浪江町に帰ってからののか、県外バラバラになっている地域に住んでるとこの幸せのためなのか、絆を失わないためのものなのか、どうとったらいいのか疑問に思った。

#### 【部会長】

確かに議論する上で頭に入れとくべきことだろうと思う。基本的にはこの復興計画をつくった時に短期、中期、長期と分けている。今動いている事業は、まさに短期で来年の3月まで短期3年間とみていたと思うが、皆さんの議論の認識はその辺が重点になってくると思う。

議論のベースは、来年の3月までを踏まえていま生活環境をいかに住みやすい環境にしていくかということが議論のベースになると思う。また中期・長期についてもそれぞれ自由に議論していただいて、その議論は今の事業に反映させるよりも少し長い話ですねというような整理の仕方になってくるかと思う。

今回の進行管理ということで考えると今現在動いていること、あるいは目先来年の3月くらいをにらんで今の生活環境をいかにより豊かに生活していくのか、そういったところが中心の視点にな



と思う。

**【委員】**

そんな小さい問題で解決できる問題じゃない。みんなオープンにしてもっと大きい意味でオープンで細かくしないで議論すべきだと私は思うが。

**【部会長】**

もっとオープンにというのは、例えばある人は健康管理の話をしてある人は賠償の話をしてある人は町外コミュニティの話と同時に出したらやっぱり議論は拡散してしまいます。整理の上でテーマを決めましょう。この日の午前中は「健康管理」を中心やりましょう。この日の午後は「町外コミュニティ」を議論しましょう。そういうような意味でのふりはやっていますが、細かい事務事業の1つ1つの話は事務局としてもやめましょうと。大きな町の方向性を議論しましょう。という意味では共通していると思いますので、議論を整理して行く上でこういう区分をしているとご理解いただきたい。

**【委員】**

今、一番困っている事、一番の心配、一番不安だと一番底にあるものは、もともとの浪江町、双葉郡、あれだけ核に汚れたところをこれからどうするのだろうと議論がどこにもやってない。そこからくる不安というのが心の中あるので、こういうことを話すよりもっと大きなことをということでおっしゃったんじゃないかなと思います。

**【部会長】**

今いただいた、浪江の町にどう戻るか、戻るところをどう整備するのかという話はまさにまちづくり計画検討部会のテーマになっていまして、低線量で戻れる所からどういう絵を描いていくかというような話はまちづくり計画検討部会で取り上げていくであろうと思います。

意見交換は午前中の議論にもありましたが、幹事会なり、全体会なりで双方の意見の交換はやっていきましょう、というようになっていきますので、その都度お感じになっていることは色々出していただいて結構だと思います。

**【委員】**

私は全部同時進行で進んでいるという認識でいる。昨年ふるさと再生部会で町に戻る為の施策をやってきたつもりです。私自身も町に戻りたいと思っている。そういうことでこれに参加しています。そういう方向でものごとが進むことを願ってます。

**【部会長】**

もちろん同時進行、同時並行で進めていることにはなります。一人の人が全部に係るっていうのはなかなか厳しいので、今回は進行管理の中で議論を進めるのですが、進行管理の中でも前のように教育だとか健康だとかで、きってしまうのではなくて全員の方が全ての運営について発言出来る様にローテーション方式を採用しているということで配慮をさせていただいている。

《とりまとめのイメージについて》

**【部会長】**

資料 進1 P.14 読み上げ 何かご意見ありますでしょうか。

**【委員】**

実際、進行管理というのは、1人いれば済むこと。ただそれだけじゃないのがこの部会。前回の計画策定委員会でまとめた物を議論するとの説明だが、復興計画【第1次】には抽象的なものも入ってるわけで、入れ替えも落とし込みも行っていいと考えてよろしいのか。

#### 【事務局】

資料2-3で細かな話でみてしまいますと、どうしても抜けている事業もあったり、もう少し踏み込んだ書き方をした方がいい事業があるかと思います。一方、復興計画の記載内容については議会の承認も必要な事項になっておりまして、文言をいれたり、項目を追加したりということにも行政手続きが必要部分にもなっています。

資料の2-3の中に新しい何か具体的な項目を追加していくというイメージよりは委員会意見にこういう取り組みも必要じゃないですかというようなご提言をいただけるようなかたちで整理できればとは思っている。

いただいたご意見については、2次計画ですとか、見直しという議論も今後でてこようかと思いますが、今回の部会を進める中で、計画書自体にそもそも手を入れていくというのは、手続き上難し部分もありますので、今程説明したかたちで整理をさせていただければと思っております。

#### 【委員】

昨年の策定委員会は、時間に追われて曖昧な部分で終わった部分がいっぱいあったんです。私ももっと時間をかけて計画をつくるべきだと話したんですが、町長さんが10月までとにかくつくれということでできた経緯がある。これだけ全部やれば浪江町が復興するのかという皆さんそうは思っていない方が多いと思う。せっかくこれだけの人が集まったわけですから、意見を出して、追加するというかたちでもっていくようにすべき。わたしとしてはどんどん復興が遅れていくんじゃないかなという気がしてならないんですけども。ここの委員会の進め方がそうだとすれば、それはしかたないと思います。

#### 【事務局】

いただいた意見は、計画書に反映されるまではやらないという事ではございません、計画書に書いてある、書いてないではなくて、必要なことはどんどんやっていく必要があると思いますのであまり、計画書の文言を直す、直さないではなくて、正に今必要なことってなんだろうという部分をご提言いただけることが大事なのかなというふうに事務局として考えております。

#### 【委員】

そうすると、この進行表というのは位置づけとはどういうふうになるわけですか。ここにもないことでも皆で話し合っただけのことやったらいいんじゃないかって、それをいれてほしいとなった時に議会の承認が必要だからはいらない、でも別の方向でやる、それ以外のことも進んで行くということになっちゃうんじゃないんですか。

#### 【部会長】

簡単にいうと、復興計画【一次】という計画書があるんですが、実態としてはこれにこだわらずに皆さんから意見をいただいて緊急性を要する事業については、計画にこだわらずにどんどんとりいれていく可能性もあるわけです。例えば、意見が出で、役場の中で緊急性がある、必要性があるというふうに認められれば、事業としては実施される可能性もあるという役割になっていると考えていいと思います。

### 【事務局】

前の復興計画の策定の際に、委員会からの提言の中で、復興計画の記載の有無にかかわらず復興に必要な取り組みについては随時実施すること、という提言をいただいております。それも含めて承認いただいております。ただ、計画書自体をいじるとなるとそこは行政手続きが必要でして今回の様に委員会の意見というのをいただいてそれを町で受け止め、これを事業化しなければいけないということは事業化していくこととなります。計画に記載していないからできないではなく、しっかりご議論いただいた中身を反映させていくということもできますので、宜しくお願いしたいと思います。

### ○その他

#### 【事務局】

次回開催日時は7月29日月曜日を予定しています。場所は二本松市内で、決まりましたらご連絡したいと思います。開催時間は10時から16時頃を予定しています。